

世界文化遺産富士山における山頂・剣ヶ峰および旧富士山測候所の保全

鴨川仁
東京学芸大学

1. はじめに

年間 30 万人前後の登山客を有する富士山では、世界文化遺産認定時におけるイコモスの勧告にもあったように、山頂保全は喫緊の課題となっている。多くの登山者が目指す日本最高地点となる山頂・剣ヶ峰では、登山者による環境悪化が深刻であり、環境省、気象庁の保全だけでは追いつかないのが実情である。

一方、大成建設によって建てられた気象庁旧富士山測候所は、2004 年の気象庁無人化後の建物の劣化は著しく進行しており、建物そのものの保全も急務となっている。

2. 実施内容

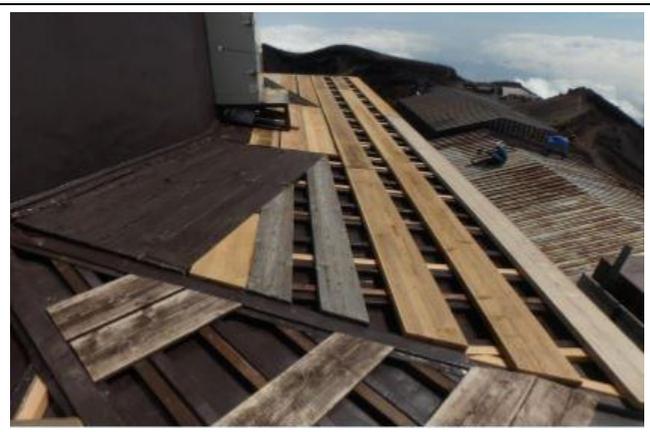
2017 年度は大成建設自然・歴史環境基金の助成において、旧測候所周辺の整備および建物の保守を行った。気象庁も現在、建物の保守は行っているが、予算に限りがあるとされ、

十分にはできないとのことであり、NPO 富士山測候所を活用する会が旧測候所のペンキ塗り、1 号庁舎屋根の保護板交換も実施した。

3. おわりに

多くの民間助成では、環境保護活動や研究を対象にしたものが中心であるが、本助成は、旧測候所の周辺、建物の保全に使えるというものであり、老朽化しつつあるインフラを事業の基盤に据えている当 NPO 法人にとっては非常にありがたい助成である。今後も恒久的な観測を続けるために、中長期的な取り組みでインフラを整備していく予定である。

謝辞 本プロジェクトは 2016 年度大成建設自然・歴史環境基金助成事業により実施した。記して感謝申上げる。



保全前：屋根鋼板はサビで腐食している。
防雪氷板(すのこ)は劣化して脆くなっている。

保全後：古い防水雪板を除去後、屋根鋼板に塗装。損傷(主に穴)箇所補修。新しい栈木、防水雪板を設置。